

第62回宮崎日日新聞賞

2026年度（第62回）宮崎日日新聞賞の受賞者が決まりました。今回からSDGs賞を新設。6部門の2個人4団体（国際交流賞は該当なし）が受賞しました。贈呈式は23日午前11時から宮崎市の宮日会館11階ホールで行います。（12、13面に受賞者・団体の特集）

科学賞

宮崎大フロンティア科学総合研究センター准教授
齊藤 暁氏（宮崎市）

【業績】宮崎大フロンティア科学総合研究センター准教授。齊藤氏が中心となり、市販のあぶらとりフィルムで採取したネコの皮脂からウイルス感染を検出する世界初の技術を開発するなど、宮崎大を拠点に感染症研究者として研究成果を発信し、地域社会に還元してきた。その独創的な研究は国際的に高く評価されている。

文化賞

宮崎県俳句協会（宮崎市）

【業績】1966（昭和41）年に設立され、今年で60周年を迎えた。毎年の俳句大会の開催をはじめ、県内俳人の作品を集めた「県俳句年鑑」、本県特有の自然や風土を反映した季語を収録した「みやざきの季語」の刊行などを通じて、本県俳句文化の継承と発信に取り組んでいる。

教育賞

宮崎公立大人文学部准教授
山下 裕亮氏（宮崎市）

【業績】2025年4月、宮崎公立大人文学部の准教授に就任。それまで約10年間にわたり、京都大防災研究所宮崎観測所で南海トラフ地震や日向灘地震の研究を続け、小中学校での防災出前授業やフィールドワークなどにも取り組んできた。宮崎公立大では地震・津波に対する防災学を担当し、防災意識の向上に尽力している。

産業賞

宮交ホールディングス
株式会社（宮崎市）

【業績】1926（大正15）年の宮崎交通の創立から数えて今年で創立100周年を迎えた。宮崎交通を中心にバス、タクシー、旅行、ホテル、商業施設、ビル管理、物流などグループ8社が多角的なサービスで県民の生活と観光を支えている。長年「県民の足」として親しまれ、「観光みやざき」の発展にも貢献してきた。

社会賞

NPO法人ASDみやざき
（宮崎県自閉症協会）＝宮崎市

【業績】前身となる「宮崎市自閉症・情緒障がい児を持つ親の会」発足から今年で50年の節目を迎えた。県内の自閉症児・者支援の草分け的存在であり、障害の有無にかかわらず「どうすれば共に楽しく暮らせるか」を地域全体で考え、実践していくための拠点となっている。

SDGs賞

平岩採介藻グループ（日向市）

【業績】地元の漁師らによって2010年に発足。魚介類の餌場や産卵場となる藻場は二酸化炭素（CO₂）排出削減につながるとして近年注目されており、その再生を図ろうと食害をもたらすウニの駆除に取り組んできた。その活動はSDGsが掲げる17の目標のうち「14 海の豊かさを守ろう」に該当する。